

教科係と教科担任の連携が必要

授業巡視で私が確認することの一つに、授業内容が書かれたホワイトボードがあります。そこに書かれた内容や書き方で、その学級の授業の進度や教科係の働きぶりがわかります。教科係の最も重要な仕事は、提出物の回収や授業準備の呼びかけではないと私は思います。次の授業では何を学ぶのかについて、ホワイトボードの限られたスペースの中にどんな言葉で、どのように書くかを自ら考えて記入することです。そこに教科係としての強い自覚を求めたいと、担任をやっている時にはいつも考えていました。

「やはり、この教科の係は〇〇さんでないのだめだ」と言ってもらえる働きをして初めて、教科係としての合格点がつくのだと私は思います。皆さんの学級のホワイトボードには、どんな内容が、どのように書かれていますか。その教科の係は各クラスに一人しかいません。それを自覚して、自分しかできない働きぶりを見せてほしいものです。

教室を回っていると、心配な記述が結構あります。学習内容が何も書かれていない教科、「続き」としか書かれていない教科、題材（教材）名すら正確に書かれていない教科、乱雑な文字や近くの者しか読めない小さな字で書かれている教科……授業や学習に力を入れるときに、果たしてこのようではないのでしょうか。スペースが限られているので多くは書けません、せめて次の授業で学ぶ方向ぐらいは、的確な言葉で丁寧に記入すべきではないでしょうか。

「ちょっと立ち止まってー本文を三つに分けようー」「盆土産ー話の中の父親の変化についてー」「助動詞ー助詞と異なる助動詞の役割ー」私の専門は国語です、次の時間の学習内容がたまかにわかる記載の仕方として、このように考えてみました。

しかし、生徒の判断だけではこのように記すことはできません。授業を進めるのは教師ですので、教科担任が授業を計画的に仕組み、教科係が的確に記入できるように、配慮する必要があります。つまり、ホワイトボードに書く内容は、教科係と教科担任の連携が必要になります。「先生、次の時間の内容は何ですか」と尋ねてくる国語係に対して、私はこう言っていました。

「授業の最後に私は話したよ。それをしっかりと聞き取ることが教科係としては必要だよ。よく聞いていてね。」

こう言われた国語係は、授業時間以外に私に尋ねに来ることとはなくなりました。教師と生徒で、ホワイトボードに書く中身を充実させましょう。

（十一月四日記）